

# さ ざ ん か

第 99 号、2010 年 2 月

4 年に 1 回の冬季オリンピックたけなわです。残念ながら、夏のオリンピックほどの盛り上がりはないように思います。一つは、冬季オリンピックの競技そのものが、日常から見慣れないものが多いせいもあるかもしれませんね。ビリヤードかボウリングなどのゲームに近いようなカーリングなども殆どオリンピックでしか見ることがない人が多いのではないのでしょうか。スケルトンとかも。

それと、参加国が、欧米の白人とアジア人は日中韓の 3 カ国で殆どであり、バラエティーに乏しいのもいまち盛り上がらない理由ではないのかなあ、と想像します。どことなく、金持ちクラブの集まり、という雰囲気がないにしてもあらずですね。ハングリー精神というか、この競技をばねに人生を這い上げるんだ、という感じの迫力不足は否めないところですよ。迫力満点の黒人の疾走など。

まあ、それはさておき、この前、新しい年を迎えたと思ったら、もうすぐ 3 月。春がやってきます。時は、その過程で実にたくさんのドラマを作ったり、壊したりしながら、それでも淡々と過ぎていくようです。失われる命、誕生する命。希望と失意。進学と就職。出会いと別れ。たくさんの出来事が最も濃縮される季節。もうすぐ、春ですね。みなさまにとって良い春でありますように願っております。

---

---

## 俳句

---

---

西屋敷 喜美子

豆まきや 座敷箒の 出番かな

次々と 鶴の引き行く 北の空

悲しさと 空しさありて 夕時雨

---

---

## 短歌 瀬戸よし子

寒行の 太鼓の響 北風が 運び来るなり 炬燵のわれに

振り返る 事なく生きし 八十年 しみじみと今朝 白梅の花

雪残る 落葉あさりて ここかしこ 小鳥の餌を 探したるあと

---

---

## 病院からのお知らせ

- \* 猛威をふるった新型インフルエンザもやや沈静化しつつありますが、手洗い励行はそのまま続けましょう。発熱して心配な方は、早めに受診してください。
- \* 新型インフルエンザワクチンは国民全員にわたる量は確保されたということですので、希望者にはおそらく全員摂取できる見込みです。摂取可能な方には病院事務からお宅に電話で連絡することになっています。
- \* 病院内では、全ての方にマスク着用をお願いしておりますので、ご協力のほど、よろしく願いいたします。
- \* 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみてもいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。
- \* MRI で脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながるからです。また、脳動脈瘤の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。無症候性の病変（症状はないけど梗塞がある）がみつかると予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。
- \* MRI は腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。
- \* 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。

---

---

## 生活（くらし）のなかで 別府正隆

今年も梅の花が咲きほころび、春の訪れを想わせる季節を迎えました。今朝は特に肌寒さを感じています。これまでの人生を振り返り見る時、実に言葉では言い知れぬ体験をして来ました。私は昭和十一年生まれ。最早や、七十四才を迎えた。当時、物心ついた頃、第二次世界大戦の真っ只中だった。昭和二十年八月終戦を迎えた時は、小学三年生だった。その後は、物不足の時代に親も子も皆が生きること必死だった事を忘れる事は出来ません。併し、当時、苦しい時代こそ、みんながお互い助け合い励まし合って来た。なんと素晴らしい光景だったろうか。今日ではこんな美しい光景があるだろうか。時に、私の心の中では夢にうなされる事もあった程。また、当時、童謡で、ゆうやけこやけ、村のかじや、朝だ元気で、等の唄がが頭をよぎる。

あの時、こんな時、困った時、全て皆んなのおかげで、これまで生かされて来た事に対して、心から感謝したい。昨年十一月政府では、管大臣がデフレ宣言をした。世の中が一変して、私たちの身の回りにも衝撃が走った。今春の高卒、大卒者の就職内定率は、これまでの最低を記録した。ましては、一般の中高年者は就職出来なくて、みじめとしか、言えないのではと思う。テレビで放映されるニュースを観る度に、嫌気がさしてならない。

国民は皆が苦しい生活（くらし）を強いられているのである。そこで、今少しお互いが譲り合いの精神で、おかげさまと云う感謝の気持ちがあれば、心にゆとりがあるのではと思います。生きることのむずかしさの中で、冬のバンクーバーオリンピックが私たちの心を和ませてくれます。皆さん、お互い生きることへのよろこびをかみしめながら、精一杯頑張らしましょう。

---

---

## いのちの値段 カラーマン（とその女）

先日の新聞記事に、病院に入院中に、食事に出されたおにぎりをのどに詰まらせて死亡した80才の男性の遺族の訴えを受けて、裁判所は、県（某県立病院）と担当ナースに対して2900万円の支払いを命じたという判決が載っていた。

咽喉に詰まらせる可能性がある80歳の男性であれば、それを最初から予見して、おにぎりなんか食べさせてはいけないのに、安易に食べさせてしまった結果、咽喉に詰まらせ死亡させたのは県とナースの過失である、という判断での懲罰が2900万円の支払いである。

ひとの命は尊い。とても、値段がつけられる類のものではないが、まあ、あえてつける

とすれば、2900万円なんて安いものだ、と思う人も居るだろう。

あるいは、ワーキングプアの若者の、例えば彼の年収が150万円としたとき、彼が10年間、汗水流して働いて、1500万円、20年働き続けてようやく3000万円稼ぐのだという数字を考えたとき、社会をリタイアした、おにぎりを詰まらせるほどもうろくした80才の老人に対しての2900万円は法外に高いのではないか、と思う人も居るだろう。

(あ、あたしは、良く分からないけれど、今のデフレ時代で、失業者が溢れ、3万人を越える自殺者が居る中で、その咽喉に詰ませたお年寄りには悪いけど、3000万円近くも払わないといけないのかなあと思うわ。死んだ人が、働き盛りで一家を支える大黒柱のヒトだったら、残された家族のためにもそのくらいのお金は必要だろうけど)

ボーナスがなくなったりして、住宅ローンが払えずにせつかく手に入れたマイホームを手放さざるを得ない人も大勢居ると聞く。多分、ローンの残り2000万円とか3000万円とかいう話だったようだ。おにぎり1個、2900円で、お釣りがくるかも。それからしても、この金額はどうも納得しにくい。

(そうよねえ。どうみても高いわよね。うらやましいとか、そういう段階を超越して、何かが違うという気がするわ。あたしが裁判官だったら、せいぜい200万円かしら。それでも高いか。そもそも何でお金なのかしらね。)

確かに人の命は大事だし、軽々に金銭に換算はできるものではない。しかし、現実の世界では金銭に換算せざるを得ない場合が多い。そこでは、仕方がないこととして、命に値段をつけざるを得ない。

問題は、命の値段がその状況によって、天と地ほどの差がでることではないだろうか。先の、80才のお年寄りは、病院でなく、家でおにぎりを咽喉に詰まらせてなくなったとすると、当然、そのことに対しては、まあ生命保険代はでるだろうが(これは、2900万円貰った場合もでるだろう)、だれもそのことに対して賠償してくれる人は居ないので、実質は0円である。病院で詰ませたら2800万円、家なら0円。

これを見ると、この場合は、2900万円は、命そのものの値段とはいえそうではない。病院とナースに対する懲罰代が2900万円と考えるべきだろう。(なんか、懲罰を与えられる方は、たまらないわねえ。これじゃ。あたしだったら、すぐにやる気なくしちゃうなあ。)

少なくとも、俗に言う逸失利益という考えからしても、80才の老人がこれから生きていて、将来得られる妥当な金額とは考えにくいと思う。これでは、平等なはずの命に大きなお金の差がついてしまう。人間は、弱い。今、入院中のうちの爺さん、おにぎりをのどに

詰まらせてくれないかなあ、などと思う人も出てくるであろう。どうせ死ぬなら、医療事故に巻き込まれて死んでくれたほうが、借金抱えている子供としてはありがたいけどなあ。

あるいは、おにぎりをのどに詰ませたという話でなくても、病院で死んだとき、なんか納得のいかない死に方であれば、もしかしたら、大金が貰えるかもしれない、という心理が増幅したり、屈折したりしながら働いた結果が昨今の医療訴訟の多さの一因である。（ジャングルジムから落ちて怪我したら、公園の管理者に賠償請求したりするのといっしょかしら？）

それはまた、行き過ぎた権利意識ということで、直接、生命の値段とは違うかもしれないけれど、根本的には似たような空気を感じるね。

そもそも、生命至上主義と云う考えが命に値段をつけるときの、大きな差が出る原因になっているように思う。声が大きいものが得をするのである。

命は大切なものである。そんなことは誰でも知っているし、わざわざ言葉にしなくても分かりきったものである。（はずである、わねえ。ちゃんとした教育をしていればね。家庭や学校でね。）

それをあえて言葉にして、生命は何よりも一番大事だ、というのが生命至上主義を唱える人達の考え方だ。（特に、マスコミはそうだわねえ。生命のリレーとか、そういう言葉が好きだものね、彼らは。）

もっとも、ここで言う生命至上主義は、仏教で言う命はみな平等だ、という考えとはほど遠いと知らなければならない。仏教の、「殺生をしてはいけない」というのはすべての生き物において、命は平等だという思想である。俗に言うマスコミも含めて生命至上主義者の生命は、あくまで「人間だけの生命」なのである。時によっては「日本人だけの生命」になったりもする。

（彼らは、焼肉ばくばく食べたりしながら、生命は大切だ、と議論しているということかしら。うーん、今日の但馬牛より、昨日の羊のジンギスカンの方が上手かったなあ、とか言いながらね。あるいは、タイの生き造りに舌鼓をうちながら）

命の値段に差がつくことは、地球上に数十億人の人々が生きているという現実をみると、仕方のないことなのかもしれない。ハイチの20万人以上の死者の一人一人には殆ど金銭的な補償はないだろうし、東洋の島国でのどにおにぎりを詰まらせて死んだ80才の男性に2800万円の補償があるのもまた、現実問題として、歴史的、社会的な背景とか国の経済力とかを勘案すると、厳然たる事実である。

問題は、ハイチと日本の比較でなくて、同じ日本国という条件で起こる命の値段の格差、ということになるのか。

(結局、ハイチと日本の格差は認めないと、現実的ではなく、原理主義的、理想主義的に過ぎることになるのかしらね。まあ、仕方のないところではあるけれど、素直に、単純に、ああそうですねえ、とは受け入れがたい面もあるわねえ。まったく、人間は面倒だわ)

更に言えば、のどにおにぎりを詰まらせて死んだ老人、その人そのものが要求したわけではない。あー、死ぬほど苦しかったから賠償してくれ、とか。死人にくちなし。残された家族が、要求するのである。そこに、実に大きな問題と云うか寂しい現状があるような気がする。かけがえのない、大切な父親を失ってしまった。とても悲しくて、残念である。

そこまでは良いが、なぜに、それが病院とナースに4000万円もの損害賠償を請求することにつながるのか。なぜに、裁判官はその訴えを認めて2900万円も賠償命令をだすのか。(4000万円請求して、手取り2900万円、ってことなのね。まあ、まあいい歩どまりだわねえ)。病院に入っている、家に居てもやがて天寿を迎えようとしている人が、である。

この状態が続けば、デフレスパイラルのような悪循環に陥るであろう。というか、すでに、陥っているのが事実である。おにぎりによる窒息死の予防策。おにぎりを食べさせないことである。リスクは背負わずに流動食にするか、チューブ栄養にすれば、窒息する可能性はなくなる。楽しみが少なくなったお年寄りに、食べる喜び、味わう喜びを与えてあげたい、というような、ちゃらちゃらした人間性は不要である、というかむしろ、有害ですらある。かくして、病院からは窒息、賠償事件は少なくなり、人工栄養を始めとするプロイラーの如き食事形態となり、安全性を確保できることになる。(そして、安全性と引き換えに、人間性を失う。というのが今回のオチかしら。)

まあ、そういうことか。人類史上、類をみない超高齢化社会。だれもが、長生きできる夢のような超高齢化社会になったはずである。「いつまでも長生きしてね」といわれて、長生きできるようになったのである。なにゆえ、ここで年寄りの命に値段をつけないければならないのか、と怒るのである。でも。誰に怒っているのか。何でも病院の責任にしてお金を請求しようとする遺族か、安易に判決を出す裁判官か、萎縮医療に走ってしまった医療関係者か。こういう風潮の社会か。権利主張一辺倒人間を生み出した現代ニッポンか。

それが分からない。ということに対しても怒っている。まことに小人救いがたし。

---

---

## 県立北薩病院の基本方針

---

---

- 1 患者さんの満足、ご家族の安心を提供します
  - 2 急性期医療の実践と、より高い専門医療を追求します
  - 3 地域の医療、福祉との連携を強め、これを支援します
  - 4 仕事を通して喜びと生き甲斐を追求します
- 
- 

---

---

## 老いること

---

---

坂村真民

老いることが  
こんなに美しいとは知らなかった  
老いることは  
鳥のように  
天に近くなること  
花のように  
地に近くなること  
しだれ柳のように  
自然に頭のあがること  
老いることが  
こんなに楽しいとは知らなかった

---

---

## 編集後記

---

---

随分と寒い日もあったけど、全体としては暖冬なのかなと思ったりします。地球温暖化という前提でものごとを考えるから、地球温暖化にしては意外と寒いとか、やっぱり温暖かだなあ、とか思いますが、そういう前提抜きで考えると大体、今頃の季節はこんなものなのでしょう。三寒四温。いずれにしろ、時は流れる、という実感のみ年々強くなっていきます。なにごとかを成したい気がするけれど、それが何なのか、それすら分からないまま、日常の時は淡々と過ぎていきます。(KT)